



まるごと博物館を

歩く (7)

今月も先月に続き、東桂地区を案内します。

①蒼竜峽

田原の滝の上流一キロにかけての流れを「蒼竜峽」といいます。この急流は、文人徳富蘇峰がその美しさに魅せられて命名をしたと言われています。岩肌の間をうねりながら流れる桂川は、蘇峰が称えたとおり、まさに竜の姿そのものです。

②古城山

蒼竜峽団地から古渡地区に向かう道の左手に、小高い山があります。ここは「古城山」と呼ばれ、昔は烽火台であったといわれています。今でも山城の名残である土塁堀切り、帯曲輪などが確認できます。現在山頂には住吉神社があり、数本の赤松の原木がさわやかに松韻をかなでています。

③おなん淵

古渡橋の少し手前に「おなん淵」があります。この淵には伝説があり、その名前の由来にもなっています。その伝説とは、『昔この近くの長者の家に「おなん」という娘が奉公しており、ある日、主人が大事にしていたお膳を割ってしまいました。普段優しくした主人の叱り方があまりに激しかったので、おなんは思い余ってこの淵に身を投げてしまったという。その後、村で人寄せがあるときなど、紙に「お膳

を十膳お貸しください」と書いて浮かべておくと、翌日には淵にお膳が浮くようになった。しかし、お膳を借りて五膳だけ返さなかった者がいたため、二度と貸してくれなくなりました」というもので、東桂の宝鏡寺に伝えられている。膳は、この名残と言われています。

④熊野神社

古渡地区から宮下地区へ出て、発電所脇の道を進むと、熊野神社の石段があります。この石段は市



蒼 竜 峽

⑥宝鏡寺

銅二年(七〇九)と書かれています。境内にはケヤキの原木が数本あり、拝殿脇のものは市の天然記念物に指定されています。また、ここはムササビの住む神社として知られ、夕方になると観察する人がたびたび訪れています。

国道方面へ戻り、宮下橋を渡ると左手に宝鏡寺山と呼ばれる小高い山が見えます。この麓に金鰲山宝鏡寺があります。庫裡は貞享二年(一六八五)に再建された古いもので、間口七間、奥行十五間のとても大きなものです。参道には松尾芭蕉の「目にかかる時や殊さら五月富士」の句碑があり、また、春には宝鏡寺山の北側斜面にヤマブキソウが黄色い花を咲かせ、訪れる人の目を楽しませています。

さて、これで東桂地区は歩き終えました。区内は歩き終えました。ぜひ皆さんもこれを参考に歩いてみてください。また、現在教育委員会では、市内を歩きたがら歩くための「ウォーキングマップ」の作成を計画しています。そこで、皆さんの散歩コースを募集して、マップのモデルコースとして活用させていただきます。ぜひ、ご応募ください。

内で一番長く、かなり急なものです。社殿は古く、天保十二年に再建されたものです。また、石段の途中を右に入って行くと、周囲七・四メートル、樹高三四・五メートルの大杉があります。この杉は本市の天然記念物に指定されています。

⑤今宮神社

熊野神社を出て沖地区に進むと、道沿いに今宮神社があります。ここは旧鹿留村の村社で、創立は和

応募・問合せ
生涯学習課 文化振興担当

ネイチャーセンター ガイド (8)

1階展示フロアでは…

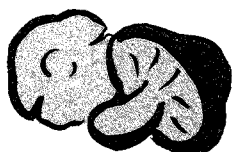
常設展示の衣替えを行い、こんなコーナーができあがりました。

・「ふれあいの里」のふしぎな世界

ネイチャーセンターでは、いきものに関する情報を集めています。

・「ふれあいの里」のふしぎな世界

ふれあいの里の食べられるきのこ、食べられないきのこ、きのこ標本の作り方などを紹介します。



みなさん、身近な秋を感じていますか？

ふれあいの里では、8月下旬にススキの穂が風にゆれはじめ、夏におわりをつげるとともに、森が静かに静かに冬支度をはじめていると感じました。

・観察のくすり体験コーナー

野鳥やノネズミたちにすみかを提供します。

設計から組み立て、そして架けるところまで全部自分でつくるよ。

2階展示フロアでは…

・「ふれあいの里」のふしぎな世界

・「コウモリたちのふしぎな世界」

都留の上空をとんでいるコウモリたちのふしぎな世界を紹介します。

ネイチャーセンターでは、都留市内にコウモリがどのくらい住んでいるのかなどの調査を始めます。家の付近にコウモリが住んでいるなどの情報を教えてください。

連絡・問合せ 都留いきものふれあいの里

ネイチャーセンター ☎(45) 6222

